

第29回地方公務員共済組合連合会
資金運用委員会

平成31年2月25日（月）

【確定版】

地方公務員共済組合連合会

午前11時07分 開会

○合田企画管理課長 それでは、第29回地方公務員共済組合連合会資金運用委員会を開会いたします。

議事に入ります前に、本日の配布資料の確認をさせていただきます。

まず、一番上に次第がございます。その次に資料1としまして、退職等年金給付調整積立金における基本ポートフォリオの見直しの検討について、資料1の参考資料としまして、参考資料①から④、資料2-1から資料2-3としまして、各積立金の第3四半期の運用状況、資料3-1から資料3-3として、第3四半期のリスク管理状況の資料でございます。それから資料4、平成30年度4月から1月の資産配分の状況、左肩に終了後回収と書かれているものがございますけれども、こちらにつきましては終了後に回収させていただきますので、よろしくお願いいたします。

資料は以上ですけれども、不足等ございませんでしょうか。

ありがとうございました。

続きまして、第28回地方公務員共済組合連合会資金運用委員会の議事録の確認をお願いしたいと思います。委員の皆様には議事録案をお配りしておりますので、そちらをご覧ください。

本議事録案については、こちらの内容でよろしいか、伺います。

ありがとうございました。

それでは、第28回地方公務員共済組合連合会資金運用委員会の議事録はこれで確定したいと思います。

本議事録は、委員会の開催日から7年後に公表することとしておりますので、ご了承願います。

では、以降の議事進行は、若杉座長にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

○若杉座長 それでは、引き続き議事進行につきましてはご協力のほどよろしくお願いいたします。

本日の委員会の議事は、「1 退職等年金給付調整積立金における基本ポートフォリオの見直しの検討について」、「2 平成30年度第3四半期の各積立金の運用状況」、「3 平成30年度第3四半期の各積立金のリスク管理状況」、「4 平成30年度（4月～1月）までの資産配分の状況について」の4本となっております。

それでは始めに議事1、「退職等年金給付調整積立金における基本ポートフォリオの見直しの検討について」の説明を、企画管理課よりお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

ます。

○企画管理課 よろしくお願ひいたします。

地共連の退職等年金給付調整積立金における基本ポートフォリオの見直しの検討について、資料1でございますけれども、こちらにつきましては先程の地共済の場合と内容がほぼ重複いたしますので、説明は割愛させていただければと思います。結論等につきましては、先程と全と一緒にございます。シミュレーションの結果も同様でございます。

以上です。

○若杉座長 よろしいでしょうか。先ほども想定していた以上にいろいろ意見が出まして、少し長引いたんですが、まだ発言したりない人がいらっしゃればと思いますが、よろしいですね。

では、後に時間を回したいと思ひまして、以上で退職等年金給付調整積立金における基本ポートフォリオの見直しの検討につきましては終了したいと思ひます。

続いて、議事2の「平成30年度第3四半期の各積立金の運用状況」の説明を、合田運用第一課長よりお願ひいたします。

○合田運用第一課長 それでは平成30年度第3四半期の各積立金の運用状況につきまして、ご説明いたします。

資料2-1、厚生年金保険給付調整積立金の管理及び運用実績の状況をご覧ください。

2ページでございますけれども、運用利回りですが、時価ベースで8.84%のマイナス、運用収益額につきましては1兆378億円のマイナス、結果的に運用資産残高は10兆6,908億円となっているところでございます。

おめくりいただきまして4ページの市場環境ですけれども、先ほど地共済でご説明しましたので省略させていただきます。

6ページの資産構成割合をご覧ください。国内債券につきましては、第2四半期末33.6%から第3四半期末36.5%と上昇しております。国内株式につきましては、第2四半期末26.9%から24.4%と減少、外国債券につきましては14.1%から15.1%と上昇しているところでございます。また外国株式についてですけれども、24.9%から23.9%と減少しております。

おめくりいただきまして、7ページの運用利回りをご覧ください。内外株式市場の下落等によりまして、収益率は全体ではマイナス8.84%となっておるところでございます。資産別では国内債券と1.02%のプラス、国内株式はマイナス17.95%、外国債券はマイナス2.53%、外国株式はマイナス15.77%となっております。

次に9ページの運用収入額でございますけれども、こちらも内外株式市場の下落等によりま

して1兆378億円のマイナスとなっております。

おめくりいただきまして11ページの資産額でございますけれども、資産総額は時価ベースで10兆6,908億円となっているところでございます。

以上で、資料2-1について説明を終わらせていただきます。

続きまして、資料2-2、経過的長期給付調整積立金についてご説明させていただきます。

2ページでございますけれども、運用利回りですが、時価ベースでマイナス8.98%、運用収益額はマイナス1兆994億円、結果的に運用資産残高は11兆1,379億円となっているところでございます。

おめくりいただきまして、6ページの資産構成割合をご覧ください。国内債券につきましては、第2四半期末33.7%から36.2%と上昇しているところでございます。国内株式につきましては、27.2%から24.6%と減少、外国債券については14.1%から15.2%と上昇、外国株式については、25.0%から24.0%に減少しているところでございます。

おめくりいただきまして、7ページの運用利回りでございます。内外株式市場の下落等によりまして収益率は全体でマイナス8.98%となっているところでございます。資産別では国内債券0.73%のプラス、国内株式17.94%のマイナス、外国債券2.52%マイナス、外国株式15.75%マイナスとなっているところでございます。

次に9ページの運用収入額でございますが、1兆994億円のマイナスとなっているところでございます。

おめくりいただきまして11ページの資産額でございます。資産総額につきましては、時価ベースで11兆1,379億円となっているところでございます。

以上で資料2-2の説明を終わらせていただきます。

続きまして資料2-3、退職等年金給付調整積立金、新3階でございます。運用実績でございますけれども、2ページでございます、簿価ベースで0.10%のプラス、運用収益額は3,800万円のプラス、運用資産残高は410億円となっているところでございます。

おめくりいただきまして、6ページの資産構成割合でございます。退職等年金給付調整積立金の基本ポートフォリオは国内債券100%となっております。実際に99.4%債券での運用となっているところでございます。おめくりいただきまして7ページの運用利回りですけれども、全体で0.10%のプラス、次に9ページの運用収入額ですが、全体で3,800万円のプラスとなっております。

おめくりいただきまして、11ページの資産額でございます。簿価ベースの資産総額は410億

円となっております。

駆け足ですけれども、以上で平成30年度第3四半期の各積立金の運用状況について説明を終わらせていただきます。

○若杉座長 どうもありがとうございました。それでは、ただいまの説明につきまして、ご質問等がありましたらお願いいたします。

先ほど議論した地共済の資金うちの半分を占めているわけですから、大体傾向は同じですが、何かご意見、ご質問等がありましたらお願いします。

喜多委員、どうぞ。

○喜多委員 一応確認なんですけれども、資料2-1と2-2、それぞれ13ページにあるのが、長期の累積収益額を表されている理解でよろしいですか。

○椋田資金運用部長 そのとおりでございます。

○喜多委員 それから、無理のない範囲で結構ですけれども、全体のアセットアロケーションと全体の総合収益だけだと議論がしづらいので、せめてこの委員会の場においては、超過収益ベースでの評価分析を出すことは難しいでしょうか。こんなきれいなフォーマットに作り直す必要はなく、内部で使われている資料で十分かと思います。そういうものを添えていただけると、もう少し議論を深めることができるように感じます。

○若杉座長 それは企画管理課、どうですか。椋田資金運用部長にお聞きしたほうが良いでしょうか。

○椋田資金運用部長 どのような資料を出させていただくかにつきましては、内部でも検討させていただきますと思います。

○若杉座長 開示ではなく、この委員会を対象に作成すれば良いと思います。

ほかにかがですか。よろしいですか。

それでは議事2の「平成30年度第3四半期の各積立金の運用状況」につきましては以上としたいと思います。

次に議事3に移らせていただきます。「平成30年度第3四半期の各積立金のリスク管理状況」の説明を藤原総括投資専門員よりお願いいたします。

○藤原総括投資専門員 それでは平成30年度第3四半期におけるリスク管理の状況、地共連の状況について、ご説明させていただきます。

資料は3-1をご覧ください。こちらが厚生年金保険給付調整積立金、地共連の1・2階部分の状況でございます。

上段のスライド1は、資産構成割合の状況です。各資産の構成割合は表の中ほどの実績ポートフォリオ構成割合に記載のとおりでございまして、基本ポートフォリオからの乖離の列をご覧くださいますと、この第3四半期末におきまして国内債券がプラス1.5%、国内株式がマイナス0.6%、外国債券がプラス0.1%、外国株式がマイナス1.1%と、地共済と同様に内外株式がアンダーウェイトの傾向となっています。

このスライド1の表の一番下、オルタナティブ資産の資産全体に対するウェイトを示しておりますけれども、0.5%となっています。

下段のスライド2、推定トラッキングエラーの状況ですが、資産全体の列をご覧くださいますと、第3四半期末におきまして0.24%でした。下の6つのチャートをご覧くださいますと、この1年概ね横ばいで推移していることがご確認いただけるかと存じます。

裏面にお進みいただきまして、スライド3は、債券のデュレーションの状況です。国内債券につきましては、第3四半期末で7.76、ベンチマークは9.14で、その差がマイナスの1.39のデュレーションショート、外国債券につきましては、実績ポートフォリオが7.01、ベンチマークが7.08、ベンチマークとの差異はマイナス0.07と概ねベンチマーク並みとなっております。

下のスライド4は、国内債券の償還期限別時価ウェイトの状況ですが、先ほどの地共済と同じように、やはり中期（3～7年）のゾーンがプラス4.6%のオーバーウェイト、超長期（20年超）がマイナス6.1%のアンダーウェイトとなっています。

次のページにお進みいただきまして、スライド5は、国内債券の種別保有状況です。国債がベンチマークとの差異でマイナス41.5%のアンダーウェイト、地方債がプラス39.7%のオーバーウェイトとなっております、それ以外の債券では事業債、並びにヘッジ外債等が若干のオーバーウェイトになっています。

その下の表にお示ししております国内債券の信用格付け別保有状況は、こちらに記載のとおりでございまして、特に大きな変化はございませんでした。

下のスライド6ですが、外国債券の通貨別保有状況です。ユーロがマイナス1%程度となっておりまして、これまでと同様の傾向が示されています。

その下の外国債券の信用格付け別保有状況につきましては、国内債券と同様に特に大きな変化はございませんでした。

裏面にお進みいただきまして、上段のスライド7ですが、株式のベータ値は、内外株式とも概ね1で推移しています。

下段のスライド8は、国内株式の業種別保有状況です。こちらは上位の20業種をお示して

いるところですが、ベンチマークとの差異の列をご覧くださいますと、プラスマイナス0.7%程度の範囲内となっていて、これまでと同様の傾向です。

次のページにお進みいただきまして、外国株式の業種別保有状況です。こちらにあるベンチマークとの差異はプラスマイナス0.3%で特に大きな変化はございませんでした。

下段のスライド10ですが、実績ポートフォリオにつきましては、この第3四半期末が12.67%、基本ポートフォリオは12.95%でしたので、基本ポートフォリオとの差異はマイナス0.28%となっております。

このスライドの下半分でお示ししております信用リスクの状況につきましては、大きな変化はございませんでした。

裏面にお進みいただきまして、スライド11でございます。このスライド11につきましても地共済と同じフォーマットでオルタナティブ資産の保有状況、4資産の区分とさらにオルタナティブ資産の資産種別の内訳をお示ししております。こちらにつきましては、前四半期と比べて大きな変化はございませんでした。

1・2階の状況は以上でございまして、資料3-2にお進みください。経過的長期給付調整積立金、地共連の旧3階の状況でございます。

上段のスライド1にお示ししております資産構成割合については、こちらに記載のとおりでございます。その右の列にお示ししております基本ポートフォリオからの乖離につきましては、地共済並びに1・2階と同様に内外株式が若干のアンダーウェイトになっています。

下段のスライド2ですが、推定トラッキングエラーの状況です。資産全体の数値が第3四半期末において0.34で、この1年を通して特に大きな変化はございません。

資料の裏面にお進みいただきまして、上段のスライド3は、債券のデュレーションの状況です。国内債券の実績ポートフォリオにつきましては、この第3四半期末におきまして6.34、ベンチマークが9.14で、ベンチマークとの差異はマイナス2.80のデュレーションショートでございます。地共連の旧3階につきましては、機構債の保有比率が1・2階より高い影響が表れています。外国債券は、実績ポートフォリオが7.01、ベンチマークが7.08、両者の差異がマイナス0.06と概ねベンチマーク並みです。

スライド4にお進みいただきまして、国内債券の償還期限別時価ウェイトです。今までのご説明と同様ですが、ベンチマークとの差異につきましては、中期（3～7年）のゾーンがオーバーウェイト、超長期（20年超）などがアンダーウェイトとなっています。

次のページにお進みいただきまして、スライド5は、国内債券の種別保有状況です。地方債

がベンチマークとの差異でプラス72.5%のオーバーウェイト、国債がマイナス68.9%のアンダーウェイトとなっていて、機構債のファンドが大体7割強を保有しておりますので、その影響がこちらに表れています。

これ以降の各リスク指標でございますけれども、いずれも1・2階とほぼ同様の内容となっておりますので、この場での詳細のご説明は割愛させていただきます。

最後に資料3-3、新3階の資料へお進みください。退職等年金給付調整積立金の状況です。上段のスライド1、資産構成割合の状況は、この第3四半期末におきまして、国内債券が99.4%、短期資産が0.6%となっております。デュレーションはその下に、ご参考でお示ししておりますとおり12.45、債券の種別は、地共連の新3階につきまして、概ね機構債ですけれども、地方債100%となっております。残高はその下のスライド2に簿価ベース、時価ベースをお示しておりますとおりでございます。

以上、簡単ではございますけれども、地共連の各積立金におけるリスク管理の状況でございます。よろしくお願いいたします。

○若杉座長 ありがとうございます。それではただいまの説明につきまして、ご質問等がございましたらお願いいたします。

蜂須賀委員、どうぞ。

○蜂須賀委員 さっきの委員会で少しコメントさせていただく時間がなかったものですから、リスクの振り返りなんですけれども、やはりこういう機会をうまく使って、いろいろ学んでいくことが大事だと思いますので、ぜひそのようにお願いしたいと思うんですけれども、必ずしもこの場でお示しいただく必要はなくて、事務局の皆様とかが腹に落ちていけばそれで良いと思うんですけれども、例えばアメリカの株式が、市場が下落した影響がどういうふうに数字として出ているのか、それは思っていたより大きいのか小さいのかとか、そういう感覚みたいなところをうまく今後の運用に活かしていただければなと思っておりまして、そういうことを通じて、リスクの分散、海外株式の構成割合は大体決まっているわけなんですけれども、その中でリスクが地域的に分散されているとか、その裏返しで、各地域の成長がちゃんと取り込まれているかを、こういう機会に、今後の運用の構成とかの見直しにぜひ使っていただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

○若杉座長 ありがとうございます。関連してご意見ありますか。

喜多委員、どうぞ。

○喜多委員 先ほど実績で超過収益についてももし可能であればと申し上げましたが、特に株

式の超過収益を論ずるにあたっては、この資料では業種構成を出していただいておりますが、一般的には運用スタイル、すなわち、グロース・バリューに分解し、スタイルマップの形式で論じることが多いと思います。内部で管理されている方法がもし違うのであれば無理にとはいませんが、もし可能であれば、全体的なポートフォリオのスタイルの偏り等もお示しいただくと議論しやすいかなと思います。

○若杉座長 その辺いかがですか。 棕田資金運用部長お願いします。

○棕田資金運用部長 ご意見ありがとうございます。

先ほどの実績でもご指摘いただきまして、今回もそうなんですけれども、我々、内部資料として把握しているものもございますので、それをどういった形でお出しできるかにつきまして検討させていただきたいと思います。

○若杉座長 よろしく願いいたします。

ほかにはいかがですか。

竹原委員、どうぞ。

○竹原委員 私も前の会議で発言する時間がなかったのですが、バリュー・アット・リスクなんです、運用が長期のものであって、短期で見てもしょうがない現実に対して、ここでのバリュー・アット・リスクは過去1年の日次データに基づいて、保有期間1年のバリュー・アット・リスクを計算されているわけですね。

例えばスライドの10番を見ても、昨年度の前半は、もうなだらかにリスクが減少していく傾向が明らかで、この方法では潜在的なリスクを把握できていないのは明らかです。

今すぐに対応することは無理であるとしても、先ほどから話が出ていますように、こういうイベントがあったときに、それをどうやって今後の運用に活かしていく観点から、もう少し別のリスク管理の方法、あるいはバリュー・アット・リスクの他の計算方法を検討されたほうが良いのではないかと思います。

○若杉座長 その点、よろしいでしょうか。

○藤原総括投資専門員 ご意見ありがとうございます。

積立金の管理運用におけるリスク管理につきましては、引き続き改善に取り組んでいかないといけないものと認識いたしてございまして、これまでも外部コンサルのご意見等を活用して取り組んでまいったところではございますけれども、今いただいたご意見、定量的なこと、さらにはリスク管理上の定性的なこと、この両者を合わせて幅広い観点からいろいろな情報を活かして、それらをどう生かすかという目線も含めて、更なる改善に繋げていくことで、何とか

積立金の管理運用、その改善にいろいろなご意見を頂戴し活用して取り組んでまいりたいと考えてございます。

○若杉座長 ほかによろしいですか。

川北委員、お願いします。

○川北委員 先ほど喜多委員が、スタイル別の株式のリスク管理ということを言われたのですが、それに関連して国内の株式に関しては、今ご承知のように東証が上場区分の見直しを検討していて、どういう決着になるのか見えないんですけども、いずれにしても、小さなところがベンチマークから外れる可能性は結構大きいので、そうすると、スライドの8番にある国内の株式に関して、業種別に見ているだけではリスクを把握しきれない。企業の規模、特に時価総額が多分中心になると思われるので、そういう時価総額を中心とした規模の観点からポートフォリオの分析を少しされておいたほうが良いのではと思います。コメントです。

○若杉座長 よろしいですか。

蜂須賀委員のご意見ですけれども、日本の一日の株価の変化というときに、午前9時から午後3時までではなくて、例えば午前9時から翌日の午前9時までを一日として見ると、日本の毎日の株価は多分にアメリカの株価に影響されていることがよく言われていますね。

ほかによろしいですか。

あと冒頭にオルタナティブ資産の割合がありますが、0.5%でなかなか増えないのですけれども、これはどうしてでしょうか。マーケットが大きくないのに、投資家の間での奪い合いが行われていると言うことでしょうか。その辺の事情を簡単に説明していただけますか。

○山縣総括投資専門員 オルタナの残高につきましては、スライド11のとおり0.52%で、これは金額でいいますと555億円でございます。残高は555億円ですが、コミットをされていて投資が進んでいないものがございますので、コミットメントベースで見ると、もう少し上の数字になっております。

それから、なかなか投資が進んでいないというご指摘ですけれども、機関投資家、あるいは年金基金の資金が相当オルタナに流れておりまして、割り当てがないケース、それから投資をコミットしても投資が進まないケースが増えている状況です。

そういう中で、案件を厳選して進めております。

以上です。

○若杉座長 今、説明していただいたやり方で結構だと思います。言うまでもありませんが、委員会で言われたからといって無理に増やすことは絶対にしないでいただきたいと思います。

ほかによろしいですか。

それではただいまのリスク管理につきましては、以上にしまして、最後に議事4の「平成30年度4月から1月の資産配分の状況について」の説明を、寺岡総括投資専門員よりお願いいたします。

○寺岡総括投資専門員 それでは資料につきまして、説明いたします。

最初に4月から1月までの市場環境の振り返りでございますが、先ほど12月までの振り返りはしてございますので、簡単に1月の状況でございます。

先ほどの報告にありましたとおり、10-12月に大きく内外株式が下落ということでございますが、1月は逆にリバウンド、株式市場の反発が起こっております。ベンチマークの収益率の4月から1月の数字が書いてございますが、これを1月に限りますと、国内債券がプラス0.37%、国内株式がプラス4.92%、外国債券がプラス0.59%、外国株式がプラス7.21%でございまして、複合ベンチマークが3.25%のプラスとなっております。12月のマイナス分の6割方が戻っている状況でございます。2月の足もともこうした傾向が続いている状況でございます。

詳しく状況については記載してございますが、説明は以上とさせていただきます。

ページをお進みください。2ページの下段に当初の見通しについて書いてございます。これは平成30年度の頭に経済市場環境見通しを立ててございます。こちらの委員会でご審議を賜っておりますけれども、世界経済は緩やかな回復基調が継続、アメリカの財政政策などから上振れする可能性がある一方で、景気サイクルが終盤を迎えていること、米国を初め、金融政策の正常化が進むことなどから景気減速の可能性のある形で見えてございました。景気全般におきましては、欧州や中国はかなり減速してございますけれども、堅調なアメリカに支えられて、世界的に景気は緩やかな回復基調を続けていることについては、概ね想定どおりと考えてございます。

一方で、世界的な景気回復が続いてございますけれども、米中の貿易摩擦の長期化への警戒感ですとか、それから世界経済の減速懸念、企業業績への先行き不透明感が強まっている状況を受け、10月から国内外の株式が大きく下落し、足もとで反転している格好となっており、市場は大きく、不安定な状況が続いている状況でございます。

ベンチマークの収益で見ましても、国内債券、4月から1月で国内債券はプラス0.96%、国内株式はマイナス7.52%、外国債券がプラス0.21%、外国株式はプラス2.08%となっております。前回の4月から10月の振り返りでも申し上げたんですが、一つには外国株式と国内株式

の格差が大きく開いているところでございます。この部分については我々の想定外の状況となつてございます。

加えまして、10-12月に思った以上に国内株式、外国株式が下落したことも想定外の状況となつてございます。

2の投資行動の振り返りでございます。真ん中の表につきましては、月別に各資産のリバランスの状況を記載してございます。下にコメントを書いておりますが、四半期をまとめて申し上げますと、基本的にオーバーウェイトの資産を売って、アンダーウェイトになっている資産を購入している部分が今年度の特徴でございます。特に第1四半期の4、5、6月につきましては国内債券、国内株式を売却いたしまして、外国株式、外国債券を購入してございます。

7月から9月につきまして様子見をしてございます。

10月以降でございますが、大きく市場が荒れる中でございますけれども、時価構成比が下がったところにおきましては、外国株式、それから外国債券、国内株式の一部の購入、および国内債券の売却等を行っている状況でございます。

ページおめくりいただきまして、4ページでございます。構成割合の推移でございますが、先ほど申し上げた投資行動、それから時価の変動等によりまして、上段の形で推移してございます。1月末の数字を見ていきますと、基本ポートフォリオに極めて近い数字になっているところでございます。

1・2階、それから旧3階におきましても、4月から1月につきましては、計画ポートフォリオの中で推移してございます。

(2)のリスク量の推移でございます。リスク量の推移、トラッキングエラーでございますけれども、資産配分にかかります部分、表の下段になりますが、概ね年度当初に想定しました0.0から0.7の範囲の下で推移してございます。

ページを進んでいただきまして5ページでございます。資産配分効果でございます。ベンチマーク収益率が4月から1月までで複合ベンチマークでマイナス0.72%でございますので、国内株式はベンチマークの収益率を下回り、内外の債券、外国株式を上回る事となつてございます。

計画ポートフォリオの資産配分効果につきましては、計画ポートフォリオ、これはレンジで定めてございますけれども、評価に当たりましては、レンジの真ん中を使って評価をしてございます。ただし、平成30年度におきましては、計画ポートフォリオのレンジの中心値は基本ポートフォリオと同じでございますものですから、計画ポートフォリオの資産配分効果はゼロと

なっております。

実績のポートフォリオでございます。1・2階、旧3階とも同じような傾向でございます。文章につきましては、資産別に記載しておりますが、下の表の資産配分効果、1・2階の一番右の実績ポートフォリオを見ていただきますと、国内株式におきましては10-12月のオーバーウェイトがマイナスに寄与しております。

それから外国株式につきましては、期首の4月-6月にアンダーウェイト、1月のアンダーウェイトがマイナスに寄与しております。4月から1月までの年度通期でございますが、マイナス0.47%と超過収益率はマイナスになっている状況でございます。

説明は以上でございます。

○若杉座長 ありがとうございます。いかがですか。

意地悪な質問ですが、見通しが当たっていたことと、見込み違いだったということがあれば、教えてくれませんか。

○寺岡総括投資専門員 こちらには記載していないんですけども、当初からはマクロ環境、いわゆる景気サイクルについては概ね想定内かなと思ってございました。その中でも少し年度後半にヨーロッパの落ち方が、少し想定以上に落ちたかなと。それと中国の減速はある程度想定内でした。

一方、金融市場につきましては、当初からかなり政治リスクもありますものですから、かなりボラティリティの高い展開かなと。特に今年度につきましては、アメリカの政権運営、特にトランプ大統領の米中の問題は、ずっと1年中尾を引いて、良いニュースが出れば上がるし、悪いニュースが出れば下がることになっておりました。

それから特に年末にかけては、長短金利の逆転などからいよいよ、アメリカの景気の後退リスクも意識されたことなどから、株価が大きく下がったところでございます。ある程度の市場の混乱といいますか、上下はあると思ったんですが、ここまで落ちるのは、見通しを超えていたところでございました。

○若杉座長 開示するとかではなく、今後のためにそういうことも文書化しておいたほうが良いと思います。

ほかはいかがですか。よろしいですか。

それではただいまの資料は回収ですので、お願いします。

それでは「平成30年度4月から1月までの資産配分の状況」については以上で終了いたします。

これもちまして、本日予定しておりました議事が全て終了しました。

事務局から連絡があればよくお願いします。

○合田企画管理課長 ありがとうございます。まず資料4につきましては回収させていただきますので、よろしくお願いいたします。

次回の日程ですけれども、3月20日に開催いたします。また今回の議事要旨及び議事録の確認につきましてはメールにて委員の皆さんにご連絡したいと思います。よろしくお願いいたします。

事務局からの連絡は以上でございます。

○若杉座長 では、以上もちまして、第29回地方公務員共済組合連合会資金運用委員会を終了いたします。どうもご協力ありがとうございました。

午前11時44分 閉会